

令和3年度(2021年度)自己評価書

学校名	北海道登別明日中等教育学校
-----	---------------

1 本年度の重点目標

- (1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細やかな学習指導の充実
- (2) 生徒の多様化に対応し、健康・安全教育や教育相談活動の充実
- (3) 地域や保護者との連携を重視した教育活動の充実
- (4) 国際理解教育、外国語教育などを通し、実践的なコミュニケーション能力や語学力の育成
- (5) 6年間を見通した計画的な進路指導の充実
- (6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視

2 自己評価結果及び改善方策

A= 3.3以上 B= 3.0以上 C= 2.9以下 D= 2.5以下

評価項目・指導等		達成 状況	取組 の適 切さ	今後の改善方策
項目	小 項 目			
学習指導	生徒の学習意欲を喚起させるような方策を立て実践している。	A	A	○教員間の日常的な授業互見を促進し、ICTを活用したコロナ禍にも対応できる個別最適で協働的な学習活動の改善に向けた取組を図る。 ○ICTを活用し、コロナ禍でも可能な国際理解教育と異年齢活動を模索していく。 ○探究活動を縦軸として、各教科等の単元を横軸に、重なる部分について補完できるようカリキュラムマネジメントを推進し、「地域との協働学習」事業の発展的継承に取り組む。
	クロムブック等ICT機器を活用し、個別・協働的な学習指導を実践している。	A	A	
	国際理解教育や外国語教育などを通し、実践的なコミュニケーション能力や語学力の育成を行っている。	A	A	
	異年齢集団による教育活動の充実に努めている。	B	B	
生徒指導	発達段階や集団の構成に応じた望ましい生徒集団の育成に努める活動が展開している。	A	A	○生徒会常任委員会やクラスリーダー会議等を活用し、生徒自らで「望ましい明日像」を議論させる。 ○JRやバス等の乗車マナー、自転車の乗り方に関するマナーの周知徹底を図っていく。 ○校内雄志の実行委員会を中心に、ピンクシャツデーの全校的取組を行えた。今後も「いじめ」やSNSの問題について、生徒会執行部、HR委員会等による自主的な取組を促し、防止策について議論をしていく。
	基本的な生活習慣を確立させるための指導を行っている。	B	B	
	生徒の自治的な活動を充実させる取組を適切に実施している。	A	A	
	いじめや学校不適応生徒への取組や、予防的な取組が適切に実施されている。	B	B	
進路指導	早期に自己理解を促し、生徒が主体的に進路選択できるように、計画的で系統的な進路指導を行っている。	A	B	○地域協働の探究活動でのキャリア教育関連分野と学年・進路主導のキャリア教育分野の一体的マネジメントにより、将来を見据えた計画的なキャリア教育の構築に取り組む。 ○大学進学希望者を含む全ての生徒の進路希望に対応できる指導体制の構築と、諸調査の分析による指導の充実を図る。 ○進路情報の提供の可視化と効率化を図っていく。
	十分な進路情報の提供を行い、学校・生徒・保護者が一体となった指導を進めている。	A	B	
	進路相談体制を整備し、進路相談の充実を図っている。	A	A	
	セミナーやスタディサプリ、模擬試験等を計画的に実施し、生徒の学習を支援している。	A	A	
保健・安全	日常の健康観察や疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組を行っている。	A	A	○今年度は授業短縮しての教育相談週間を設定できた。 ○サポート委員会規則を作成し、組織の業務が明確となった。また、配慮を要する生徒一覧を常時更新し、教員による把握が容易となるなど相談体制の整備が進んだ。 ○早期のサポートが必要な生徒への特例検討会議の運営やコーディネーターによる家庭訪問等の機動的対応が、今後の課題である。
	生命を尊重し、思いやりの心を育む指導を推進している。	B	B	
	教育相談体制が整備され、計画的かつ状況に応じた活動を行っている。	B	A	
対外・総務	各種行事等におけるPTAとの連絡調整が図られ、適切な運営に努めている。	A	B	○次年度はHPのトップ画面のメニューの整理を行い、さらに見やすい・使いやすいHP作りを心がけていく。 ○次年度もPDCAサイクルを重視し、積極的に学校の改善をサポートしていく。 ○デジタル化を積極的に図り、情報発信等の効率を図っていく。
	学校評価を軸としたPDCAサイクルによる改善が推進されている。	B	A	
	本校の教育活動を広く伝えるため、広報活動等の改善を行っている。	A	B	
寄宿舎	生活習慣を確立し、異年齢交流を活かした寄宿舎生同士の良好な人間関係の構築に努めている。	B	B	○現在行われているリーダー会議を活用し生徒の自主性を育むとともに、生徒の意思を尊重したサポート体制を構築する。 ○コロナ禍においても異年齢交流等、寄宿舎独自の活動を可能な限り実施することに努め、寄宿舎生徒同士のコミュニケーションや仲間意識の醸成を支援する。
	主体的に生活改善する姿勢の育成のため、各回生のリーダーやエリアリーダーを中心とした組織運営を行っている。	B	B	
	HR担任や宿直担当、保護者、スクールカウンセラー等と連携して生徒の健康と安全を確保できている。	A	A	
運営全般	道内唯一の道立中等教育学校として、ここでしかできない教育を探究できている。	B	A	○地域連携の探究的学び、国際理解教育、異年齢教育、先取り学習、6年間一体の進路指導などの一層の充実に努める。 ○管理職のリーダーシップのもと、コアチームを立ち上げ、部活休養日設定、定時退勤奨励日の設定、業務縮減等など、学校の働き方改革の推進に努める。
	研究指定での成果を教育活動に応用している。	A	A	
	定時退勤日や部活動休養日の設定など、勤務時間縮減に向けた取組を行っている。	B	A	

A: 十分である B: おおむね十分である C: やや不十分である D: 改善を要する